

令和4年度 認定こども園あおがき 幼稚園評価

重点目標

- ・基本的な生活習慣の定着を図り、集団における望ましい態度や能力を育てる。
- ・自ら物事に取り組みうとする意欲や態度を育む。
- ・心豊かで、たくましい子を育み、生きる力の基礎を培う。
- ・身近な人や自然、動植物とふれあう直接体験を通し、情操豊かな心を育てる。

○ 自 己 評 価				○ 幼 稚 園 関 係 者 評 価	
領域	評価の観点	評価項目	達成状況	園の取り組み状況と改善の方策	自己評価の各観点に対する評価
園運営	開かれた認定こども園づくり	多様な人々とのふれ合いやかかわり	A	コロナも少しずつ緩和されているが、園内に地域の方を招待することは難しいため、園外に出る機会を多く持ち、出会った人に元気よく挨拶をする姿が見られた。また、地域のお祭りで和太鼓を披露する機会が2回あり、青垣地域を盛り上げるとともに、その後の祭りにも参加することで地域の方とふれ合いを持つことができたとともに、その後の祭りにも参加することで地域の方とふれ合いを持つことができた人との関わりにつながった。参観日では、おみせやさんごっこや豆まき遊びなど保護者と一緒に参加してもらおうことで、子どもたちの成長がよりよく分かったという感想をいただいた。次年度も保護者を巻き込み子どもと一緒にいろいろな体験をしてもらうよう取り組んでいく。	園外に出る機会を多く作り、地域の方とのふれ合いを大切にされていると感じる。5歳児の祭りでの太鼓披露は、地域の方に興味を持ってもらえる良い機会でもあった。次年度は、コロナも緩和され、少しずつ外とのつながりも持てるようになると思うので、保護者だけでなく地域も巻き込み、一緒に子どもの成長を見守ってもらえるような取り組みに期待する。
	子育て支援の推進	「親と子の育ちの場」につながる相談活動の充実・情報発信	A	今年度は、市の子育て学習センターと連携し、8月に人形劇観賞・1月に猿回し観賞を実施し、15組程度の参加者があった。コロナ禍であるため、園児との直接的な交流ができなかったのが残念である。次年度は、親子クッキングやこども園の行事に参加してもらおうなど、体験型の企画を計画していく。アンケート結果の相談しやすい体制の肯定的意見が100%と高くなっていることから、「親と子の育ちの場」としての役割を十分に担っていると感じる。	育児相談を利用される保護者も増えているようで、安心して相談できる体制ができていると感じる。市の学習センターとも連携を取り、未就園児の親子へのかかわりも大切にされていることがよくわかる。また、人形劇や猿回しなど普段あまり経験できないようなことを計画してもらいありがたい。これからも『親と子の育ちの場』となるよう期待する。
教育課程	遊びを通じた幼児期にふさわしい生活の総合的な展開	体も心も満足する遊びの体験	A	職員が自然体験学習の研修を受け、職員が楽しむことで、子どもたちがワクワクするような体験に取り組んだ。花水を作って遊んだり、苔の上を歩くことでふわふわした所を歩く心地よさを感じたり、稲刈り後の田んぼで虫探しやコスモス畑を走り回る体験など、自然への興味・関心が深まっていくようにした。年間を通して『斎藤公子のリズム運動』を取り入れ、ピアノに合わせて全身運動を行い、運動発達を促すようにしたが、すぐに成果としてあらわれることではないので継続して取り組んでいく。来年度は第2園庭を計画的に活用し、体も心も満足する遊びの体験を充実させていく。	子ども達が、自然にふれる様々な体験ができていることを嬉しく思う。子ども達は、外で走ったり、花や虫を見つけたりふれたりすることが好きなので第2園庭の活用でさらにより環境になることを期待しています。子どもの成長・発達は、繰り返し遊ぶことで身につけていくと思うので『斎藤公子のリズム運動』を通して運動発達を促し、体軸・体幹が身につけていくように取り組んでほしい。
	基本的な生活習慣の育成	家庭と共に進める生活習慣の育成（挨拶・姿勢）	B	挨拶については、園では登降園時、教室に入る時など、教師や友だちに挨拶ができていると感じる。しかし、アンケートでは、そう思うが47%とかなり低い。家庭の中でも挨拶ができるように啓発していく必要がある。成長段階で体軸がしっかりしていないため、姿勢を保つことが難しい子どもが多い。園でできることは、遊びの中で、繰り返しリズム運動を取り入れることにより、自然と体軸・体幹が身につく、姿勢を保つことができる体の形成へとつなげていく。また、家庭でも大人が見本となるよう意識していただけるような情報発信に努めていく。	登降園時に、親同士で挨拶をするものの、子どもに向けて挨拶をしていないように思う。親が手本となって挨拶をしている姿を見せることが大事だと思う。できていないことばかり注意して、できたことを認めていないことが多く、子どもが挨拶しても褒めてあげてくれることを忘れてしまっている。親がもっと子どもを認める言葉がけをすることで、子どもの幸福度が変わっていく。挨拶ができた時に褒める。大人が挨拶してくれて嬉しかったと伝え、褒めてもらうことの積み重ねの中で、挨拶が定着していくと思う。今後も園だよりなどでも啓発して欲しい。
	園小連携	小学校との連携・交流	A	小学校の教諭が園の子ども達の活動の様子を参観しアプローチプログラムからスタートカリキュラム作成の手掛かりになる意見交換をした。子どもたちの育ちにつながるよう今後も園小連携・交流を深めていきたい。また、出前授業で実際に体育の授業を受けたり、5・5交流など小学生との交流も実施したりすることで、小学校への期待につながっている。今後も、直接的な関わりが十分持てるようにしていく。アンケートでは、肯定的意見が97%と高くなっており、引き続き交流・連携の様子を発信し、保護者の安心にもつながるよう努めていく。	家庭で子どもたちからも小学校との交流の話聞くことがあり、小学校への期待につながっていることが感じられる。小学校との交流は子ども達の不安な気持ちも少なくなり楽しみが増える良い機会だと思う。また、先生同士が共通理解を図ることでより子どもたちの育ちにつながるので、今後も連携を図り取り組みを進められることを期待する。
課題教育	特別支援教育	誰もがわかりやすいユニバーサルな学級経営	A	誰もが見てわかりやすいようイラストや写真、文字等で「見える化」して伝えるユニバーサルデザインを実施した。そのことにより、子どもたちが見通しを持って進んで取り組んだり、伝え合う様子も見られたりし、子どもたちが主体的に活動する学級経営を進めた。子どもだけでなく、周りの教師も活動の把握、子どもと一緒に考える機会となっている。今後も取り組みを進めていく。	誰が見てもわかりやすく進められていることはとても良いことである。イラストや写真を使うことで、見て考える力が育ち、子どもたちが主体的に活動しやすくなると思う。支援を要する子どもはもちろんのこと、クラスの子どもたちが安心して生活できるよう、今後も取り組みを進めていきたい。
	道徳性の芽生え及び人権教育	一人ひとりを大切に、他者を思いやる心の育成	A	活動の振り返りや終わりの会で、友だちの良いところやその日困ったこと、友だち同士のやり取りの中で思いの行き違いなどについて話し合い、思いを伝え合うことで、相手の気持ちを考える機会を持ち、課題解決に向けてクラス内で話し合った。時には、絵本や紙芝居などを活用し、自分と相手との思いの違いに気づいたり、相手を思う気持ちが育っていくように話し合ったりした。常に子どもの良いところを見つけ、肯定的な言葉を遣い、子どもの自己肯定感を高めていき、生きる力の基礎が身につけていくように働きかけていく。	子ども達が自分では言いにくいことをみんなで話し合うという良い機会を作っていると思う。互いに話し合って解決できていれば嬉しい。押しつけや強制ではなく、肯定的な言葉が返ってくるとうれしいと思う。家庭でも園でも子ども達を認めることを忘れず、沢山肯定的な言葉をかけて自己肯定感を高めていくことが大切だと思う。
	安全教育	遊びや生活の中で体験を通じた安全教育の実施	B	避難訓練・交通安全・横断歩道の渡り方など、交通安全教室、園外活動の機会を通して子どもたちと話し合ったり、教材を利用したりしてわかりやすく伝え意識につながるよう努めた。体験を通し身につけるようにしていく。ヒヤリハット事例については、職員会議で共有し、ヒヤリハットとして捉える内容の確認をし危機意識の向上に努めた。子どもたちも共有しながら、安全への意識の向上に繋がるようにする。	様々な避難訓練やヒヤリハットの共有などにより、子どもの命を守る安全な教育を進めていただいている。安全面と開かれたこども園とは表裏一体である。安全教育にやりすぎはないので、緊急時には地域の方にも協力を得ながら、さらに安全教育に努めていただくことを期待する。
	食育	食べ物への関心を広げ「感謝の心」を育む	A	今年度は『五感で感じる食体験の取り組み』をテーマに、食への関心を広げるようにした。野菜を育て、生長に興味を持ち味わうことで旬の野菜の美味しさを感じられるようにした。また、すり鉢体験、アマゴ焼き、野外でのカレー作り等、様々な食体験を取り入れることで、五感を働かせる楽しい食育へとつなげた。献立の食材を3色に分けたことで食材の効果をj知る機会になった。また、給食を作っている過程をビデオに撮ったものを見て、調理室内の見学をすることでさらに食への関心が広がったようである。食材をいただいた地域の方や調理師に手紙を書き、お礼の気持ちを伝える姿も見られ感謝の心が育まれていると感じる。	食事よりも遊びが勝つ年頃だが、いろいろな食育体験の取り組みをされていて、食事が楽しいと思え、好き嫌いも減っているのではないかと感じる。また、食育だよりも旬の話題や参考になることが書かれており、いつも楽しみに見せてもらっている。引き続き、保護者も食に関心が持てるような食育だよりに期待する。家庭でも、食事時の挨拶をきちんと行い「感謝の心」が育まれるよう啓発して欲しい。

自己評価の実施方法についての評価			
※領域（3領域） 園運営、教育課程、課題教育			
領域	観点		
園運営	開かれた園づくり、組織運営、教職員の育成、子育て支援の推進、危機管理、安全管理、保護者地域住民との連携、施設設備 等		
教育課程	幼児期にふさわしい生活の展開、幼小連携、特別支援教育、基本的な生活習慣の育成 等		
課題教育	特別支援教育、環境教育、道徳性の芽生えの育成及び人権教育、情報教育、食育、防災教育 等		
※達成状況 A：優れている B：おおむね良好 C：やや改善 D：要改善			
幼稚園関係者評価のまとめ			
<p>幼稚園関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について</p> <ol style="list-style-type: none"> 第2園庭の活用のもと、自然にふれ知的な好奇心を刺激しながら自ら考える力を育み、自己肯定感を高められるよう自然体験を積み重ねていく。 地域の方のかかわりを広げ、「ありがとう」の感謝の気持ちや自ら挨拶できる子どもを育む。 斎藤公子のリズム遊びを楽しみながら体軸や感覚を養い体の形成へとつなげていく。 アプローチプログラムからスタートカリキュラムを活用し、園小連携の充実を図る。 生活安全への意識の共有と改善を図りながら、職員間のチーム力を高める。 			
<p>どの項目も園でできる十分な取り組みをされていると感じている。基本的な生活習慣の挨拶は、人と人をつなぐ基本となることでもあるため、まず保護者が子どもの鏡になるよう挨拶をしっかりとしてもらいたい。また子どもが挨拶をした時は、しっかりと褒めて認めることが大切である。</p> <p>これからも、保護者への情報発信・啓発を行い、園と保護者と地域が一体となり『子どもまんなか社会』の実現に向け取り組んでほしい。</p> <p>今後のコロナ対応もいろいろなことが任意になると思うが、子どもの安全を第一に考えて職員が一枚岩となり対応するよう努めてほしい。</p>			

令和5年 3月 22日

社会福祉法人青垣福祉会

認定こども園あおがき

園長 安田 千代

